

令和8年度

シラバス(専門教科)

～生活情報科 2年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

生活情報科 2年 専門教科

生活コース

- 1 生活産業情報
- 2 保育基礎
- 3 ファッション造形基礎
- 4 フードデザイン
- 5 生活文化

情報コース

- 1 ビジネスコミュニケーション
- 2 商品開発と流通
- 3 簿記
- 4 原価計算
- 5 情報処理
- 6 ソフトウェア活用

<h1>生活産業情報</h1>	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第 2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	・情報処理に関する基本的な技術や知識を習得し、実生活の中で活用する力を身につける。
使用教科書・副教材等	生活産業情報（実教出版） 日本情報処理検定協会主催問題集

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	各種アプリケーションの基本操作 文書作成ソフトの利用 生活産業におけるコミュニケーション と情報デザイン	・パソコンの基本的な操作ができるようになる。 ・身につけた知識と技術を生かしてヒューマンサービスに関する情報コンテンツの作成ができるようになる。 ・様々なメディアの特性とコミュニケーションの特徴を理解し、情報コンテンツに関連する技術を身につける。	
2 学 期	生活産業におけるコミュニケーション と情報デザイン 各種アプリケーションの基本操作 表計算ソフトの利用	・目的や対象に応じたコミュニケーションの方法や、情報デザインについて課題を発見し、その解決に向けた取組を考えることができる。 ・表計算ソフトを用いて、データベースの作成や処理方法を理解し、技術と知識を身につける。 ・ヒューマンサービスに関する情報コンテンツの作成ができるようになる。	日本情報処理 検定協会主催 の検定実施
3 学 期	各種アプリケーションの基本操作 プレゼンテーションソフトの利用	・プレゼンテーションソフトを用いて、情報を他者に伝えられるプレゼンテーション技術を身につける。 ・身につけた知識と技術を生かしてヒューマンサービスに関する情報コンテンツの作成ができるようになる。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	生活産業情報に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストや定期テスト ・ ノートの状況 ・ 発表の内容やしかた ・ 配布物の管理 ・ 課題やレポートの内容や提出状況 ・ 実習の取り組み・態度
思考・判断・表現	情報収集や活用における基本的な知識を身につけ、それらを実生活のなかで活用することができている。	
主体的に学習に取り組む態度	情報処理に関する関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し意欲的に活用しようとしている。	
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

<h1>保育基礎</h1>	単 位	3 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第 2 学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴など保育に関する知識と技術を習得する。 2 子どもの健全な成長を図る能力と態度を習得する。 3 保育に関する課題を見つけ、解決する力を習得する。
使用教科書・副教材等	保育基礎 保育基礎学習ノート（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	子どもの保育 子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生のなかで乳幼児期の持つ意味と重要性を理解する。 ・発育・発達・成長の意味と関係について理解する。 ・乳幼児期の身体の発育の特徴について理解する。 ・乳幼児期の心の成長には愛着が重要であることを理解する。 ・子どもの人格形成に周囲の大人が影響していることを理解する。 	作品製作
2 学 期	子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の生活の特徴と適切なあり方について、実習を通して理解を深める。 	作品製作
3 学 期	子どもの文化 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の基本的欲求や社会的欲求に着目し、心身の発達に応じた保育について考える。 ・家庭保育と集団保育の特徴を理解する。 ・児童福祉に関する基本的な法律と制度を理解する。 ・近年の子育て支援に関する施策について考える。 	作品製作

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の生活および発育発達の様子等、保育に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。 ・保育に関する基礎的、基本的な技術を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストや定期テスト ・ ノートの状況 ・ 発表の内容やしかた ・ 配布物の管理 ・ 課題やレポートの内容や提出状況 ・ 実習における作業の状況 ・ 学習活動への取り組みや態度 ・ 作品の完成度
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く社会の問題について理解し、身近なものから主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけているか。 ・自分の意見や学習したことをまとめたり、発表したりすることができるか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保育について興味・関心を持ち、授業に積極的に取り組んでいるか。 	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>ファッション造形基礎</h1>	単 位	4 単 位
	学科・学 年・学級	生活情報科 第 2 学年

学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得させる。 2 洋服の製作に関する理論と技術を習得させる。
使用教科書・副教材等	教科書：「ファッション造形基礎」(実教出版) 副教材：家庭科問題集 被服編 (全国高等学校家庭科教育振興会)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	衣服の構成 衣服の素材 洋服の製作 ブラウス・シャツの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立体構成における特徴と平面構成との違いを理解する。 ・ 着用目的や個性、季節にふさわしい被服材料の素材や色、柄について考える。 ・ 洋服の基本的技法を学び、その効果について理解する。 ・ 洋服製作に関する基礎的な知識・技術を修得する。 ・ 作品に応じた適切な仕上げ方ができる。 	
2 学 期	洋服の製作 ブラウス・シャツの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習し修得した知識と技術を生かし、洋服製作ができる。 ・ 仮縫いと補正の方法と意義を理解する。 	家庭科技術 検定洋服準 1級の実施
3 学 期	洋服の製作 スカート等の製作 着装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋服製作の技術を習得する。 ・ 製作した作品を着装する。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋服の構成や製作に関する基礎的な知識を身につけているか ・ 洋服製作に関する基礎的な技術を習得しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストや定期テスト ・ ファイルの管理状況 ・ 発表の内容やしきた ・ 課題やレポートの内容や提出状況 ・ 実習の取り組み・態度 ・ 作品の完成度 ・ 出欠状況
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋服について理解し、適切な選択ができる能力を身につけているか 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋服の歴史や構成に関心を持ち、積極的に実習に取り組んでいるか 	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>フードデザイン</h1>	単 位	4 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 日本の食生活の現状と課題を把握し、食事作りの喜びや集団での食事の楽しみを知り、輸入食品によって支えられている食糧事情を理解し、食物を大切にすることを養う 2 栄養素の種類とはたらきについて理解し、それらの消化吸收過程を把握する 3 食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる
使用教科書・副教材等	フードデザイン (実教) フードデザインワークノート (実教)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	食生活と健康 1 食事の意義と役割 2 食を取り巻く現状 フードデザイン実習 1 献立作成 2 調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と役割について理解する。 ・私たちの栄養の摂取状況について知る。 ・食の外部化や食料自給率の低下などの諸問題について正しい知識を身につけ、「食」について自分なりの考えを確立する。 ・日常食の調理実習をとおして、知識と技術を習得する。 	
2 学 期	栄養素の働きと食事計画 1 栄養素の働き 2 ライフステージと栄養 3 食事摂取基準と食事計画 フードデザイン実習 1 献立作成 2 調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・各栄養素の種類と栄養的意義、それらの栄養素を含む食品について理解する。 ・各栄養素の代謝経路と役割を理解する。 ・食物摂取の必要性や健康を維持するために必要な栄養摂取量、ライフステージごとの栄養摂取の特徴を理解する。 ・日常食の調理実習をとおして、知識と技術を習得する。 	家庭科食物調理技術検定準1級の実施
3 学 期	食品の特徴・表示・安全 1 食品の特徴と性質 フードデザイン実習 1 献立作成 2 調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の特徴とその成分、調理上の性質及び調理による成分の変化などについて理解する。 ・日常食の調理実習をとおして、知識と技術を習得する。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活に関する基礎的、基本的な知識を身につけているか。 ・食生活の充実・向上を図るために、必要な基本的基礎的な技術を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストや定期テスト ・ ノートの状況 ・ 発表の内容やしかた ・ 配布物の管理 ・ 課題やレポートの内容や提出状況 ・ 献立作成 ・ 実習の取り組み状況 ・ 発言や発表の仕方と態度 ・ 実習の準備、忘れ物
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活を見直し、課題を見つけられるか。 ・課題解決を自ら考え適切な判断をしているか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活に関する知識・技術を習得するために自ら進んで学習活動に参加しているか。 	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>生活文化</h1>	単 位	単 2 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	実践的・体験的な学習活動を通して、日本文化である茶道・着付けに関する知識と技術を習得させ、日本の文化や礼儀作法を大切にする態度を身につける。
使用教科書・副教材等	学校茶道 初級編 (財団法人 今日庵)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学 期	1 茶道のこころ	・茶道を学ぶ上で大切な礼儀や、心得について理解する。	
	2 実技編	・茶道の道具、床の間、菓子などについての基本的な知識を理解する。	
	3 実技	・割り稽古、盆略点前の実践	
2 学 期	4 茶道の成り立ち	・茶道の成立までの歴史や、茶道の歴史的な位置づけ、伝統について知る	
	5 茶席の心得	・立ち居、振る舞いと客の心得を知る。	
	6 実技編	・茶道の道具、床の間、菓子などについての基本的な知識を理解する。	
	7 実技	・割り稽古、盆略点前の実践	
3 学 期	8 茶道の基礎知識	・茶室、露地、茶花など、茶道の基礎知識を理解する。	
	9 浴衣の着付け	・浴衣の着付け、帯結びの基礎知識を理解し技術を身に付ける。	
	10 浴衣の着付け実技	・和服の起居動作やマナーについて、実習を通して体験的に理解し実践できる。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	・茶道に関する基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、茶道の実践的な技術の習得ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 発表の内容やしかた ・ レポートの内容や提出状況 ・ 実習における作業の状況 ・ 学習活動への取り組みや態度
思考・判断・表現	・茶道について、基礎的基本的な知識を身に付け、より向上するために工夫し自ら考え選択することができる。	
主体的に学習に取り組む態度	・茶道について興味・関心を持ち、授業に積極的に参加している。	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

ビジネスコミュニケーション	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 情報コース

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に合わせて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として、創造的に解決しようとしている。 (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
使用教科書・副教材等	ビジネスコミュニケーション ・ ビジネスコミュニケーション準拠問題集

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第1章 企業の組織と人間 1 企業の組織と意思決定 2 業務の進行方法 3 仕事に対する心がまえ 4 人的ネットワーク 第2章 応対に関するビジネスマナー 1 挨拶 2 身だしなみ・表情・身のこなし 3 名刺交換と紹介 5 訪問・来客。電話の応対 第3章 交際に関するビジネスマナー 1 交際のマナーと食事のマナー 第4章 接客に関するビジネスマナー 1 接客 2 ホスピタリティの概念と重要性	・ 社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解し、人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解し、日頃の生活に少しでも生かしていけたら、より充実した高校生活をめざしてみませんか。 ・ 実際のオフィスでの状況を想定してロールプレイング形式で実践・練習していきます。今後予想される就職活動や進学の面接対策にもなります。 ・ 冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、ロールプレイング形式で実践・練習していきます。 ・ 食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、ロールプレイング形式で練習していきます。 ・ 効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践・練習していきます。	
2 学 期	第5章 コミュニケーションの役割と思考方法 1 コミュニケーションの役割 2 デイベート 第6章 ビジネスコミュニケーション 1 討議や発表 2 交渉や苦情対応 第7章 コミュニケーションとビジネススキル	・ デイベートやディスカッションの方法を理解し、主体的に活動に参加してみましょう。(行動観察をします) ・ プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。(各自発表をしてもらいます) ・ 交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を理解し、実践してみましょう。 ・ 市場やビジネスシーンの国際化について理解しましょう。 ・ ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組んでみましょう。	
3 学 期	第9章 ビジネスの会話 1 国内での接客 2 入国 3 商談と会議	・ 外国に入国する際に必要な英語について実務に即して理解し、関連する技術を学習しましょう。 ・ ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な会話について実務に即して理解していきましょう。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	・ 単元テストや定期テスト ・ ノートの状況
思考・判断・表現	コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている	※メモが大切! ・ 発表の内容やしかた ・ 配布物の管理
主体的に学習に取り組む態度	他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている	・ 課題やレポートの内容や提出状況
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

<h1>商品開発と流通</h1>	単 位	3 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 情報コース

学習到達目標等	
学習の到達目標	1 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけていきます。 2 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
使用教科書・副教材等	商品開発と流通

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	第1章 商品開発と流通の概要 1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり 第2章 商品の企画 1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査 3 商品コンセプトの策定	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発と流通の意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて理解しましょう。 商品の企画について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけていきましょう。 ※ 身近にある商品がお店に並ぶまでの過程（裏側）は、分かりにくい部分が多いですが、この難しく分かりにくい部分あつての商品なので、実例をもとに理解をすすめていきましょう。	
2 学期	第3章 事業計画の立案 1 事業計画の概要 2 価格・流通計画 3 プロモーションと事業計画 第4章 商品の開発 1 商品仕様と詳細設計 2 ブランド 3 知的財産権の登録	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発と流通に係る事業計画について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につける。 商品開発と流通に係る事業に関する課題を発見し、それを踏まえ、事業計画を立案して実施し、評価・改善する。 ※ 3年生の「課題研究」「総合実践」と連動し、情報コース2・3年生が共同で農林館まつりで商品開発から販売実習までを実習していきます。例年、農林オリジナルのピザや農林の農産物を使ったオリジナル弁当を企画・販売しています。	
3 学期	第5章 商品の販売 1 販売員活動 2 セールスプロモーション 第6章 商品開発と流通に関わる新たな展開 1 商品開発や流通の新たな展開 2 新たな商品開発・流通	<ul style="list-style-type: none"> 流通とプロモーションについて企業における事例と関連付けて理解しましょう。 流通とプロモーションに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて改善していきましょう。 ※ 2学期に農林館まつりでの取組をもとに来年に向けて工夫・改善していくことをめざしています。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや定期テスト ノートの状況
思考・判断・表現	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、新たな計画を立案・提案している。	<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容やしきた 配布物の管理 課題やレポートの内容や
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らの役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、責任をもって取り組もうとしている。	提出状況 ※ 販売実習への積極的な取組姿勢が高ポイントです。
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

簿記	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 情報コース

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	(1) 企業において日常発生する多様な取引を記帳する知識と技術を身につけます。 (2) 取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至るまでの簿記の仕組みについて理解を深めます。 (3) 作成した帳簿、伝票、仕訳帳や貸借対照表、損益計算書を通してビジネスの諸活動を計数的により深く把握する能力と態度を育てます。
使用教科書・副教材等	新簿記新訂版(実教出版), 最新段階式簿記検定問題集2級改訂版(実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第2編 取引の記帳 第10章 現金・預金 第11章 商品売買取引 第12章 掛け取引 第13章 手形取引 第14章 その他の債権・債務取引	<ul style="list-style-type: none"> 簿記上の現金の入金・出金及び当座預金の預け入れ、引き出しや借り越し、小口現金の処理、現金と当座預金に関する取引の記帳について理解できるようになりましょう。 売上帳・仕入帳および商品有高帳、売掛金元帳・買掛金元帳の記帳について理解できるようになりましょう。 立替金と預り金の違いと、商品券を発行する場合の考え方を理解できるようになりましょう。 	
2 学 期	第15章 固定資産の取引 第16章 資本の取引 第17章 販売費及び一般管理費 第4編 会計帳簿と帳簿組織 第22章 伝票の利用 第5編 取引の記帳 第24章 特殊な取引 第26章 本支店会計 第6編 決算 第28章 決算整理	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産の取得と売却及び減価償却について理解できるようになりましょう。 追加元入れ・引き出しの違い、法人税との関係について理解できるようになりましょう。 より正確な売上原価が算出できるようになりましょう。 帳簿組織(主要簿と補助簿、補助元帳)について理解できるようになりましょう。 5伝票の集計・転記のしかたを理解します。仕入・売上伝票の起票・転記のしかたを理解できるようになりましょう。 支店会計の独立による本支店間の取引及び本店集中計算制度による支店相互間の取引の記帳について理解しましょう。 財務諸表が合併する場合の決算整理及び手順が理解できるようになりましょう。 	
3 学 期	第27章 電子記録債権と債務 第29章 株式会社の取引と財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> 現金や掛け取引とクレジットと割賦との違いを理解できるようになりましょう。 株式会社の設立および開業、増資したときの取引の記帳のしかたを理解しましょう。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	簿記に関する発展的な知識を身に付け、多様な仕組みについて理解している。 簿記に関する発展的な技術を身に付け、より適正に会計処理を行う手順を把握し、その技術をより適切に活用している。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや定期テスト ノートの状況 発表の内容やしきた 配布物の管理 課題やレポートの内容や提出状況
思考・判断・表現	適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め、これまで学んだ知識と技術を基に、より実際のビジネスに即して適切に判断し表現する能力を身に付けている。	<p>※<u>自分オリジナルの参考書になるように配布プリントを綴じると良いです。</u></p>
主体的に学習に取り組む態度	簿記について高い関心を持ち、会計規模に応じて適正な会計処理を行うことを目指して主体的に取り組んでいる。	
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

<h1>原価計算</h1>	単 位	3 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得し、原価の概念について理解しましょう。 2 原価計算から得られる情報を活用する能力と育てましょう。
使用教科書・副教材等	原価計算, 最新段階式簿記検定問題集Ⅰ級原価計算

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算	<ul style="list-style-type: none"> 原価計算における勘定記入の特徴を理解しましょう。 工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解しましょう。 工業簿記の一連の記帳手続きを学習させることにより、全体的な構造を理解しましょう。 ※ 原価計算は工業簿記のなかに含まれます。1年の簿記で学習したのは商業簿記です。借方や貸方は不変ですが、発想が違うので、商業簿記と混乱しないようにしましょう。	
2 学 期	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第4編 部門別原価計算の基礎 第5編 標準原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 単純個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表の記入方法をマスターしましょう 部門別個別原価計算の必要性を理解し、部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認します。生産形態の違いから、原価計算の方法も異なることに注意しましょう。 個別原価計算と総合原価計算の違いを理解しましょう。 総合原価計算の種類と全体的な手続きの流れを理解しましょう。 製品の完成と販売、決算と本社・工場間の取引、原価計算と経営管理、標準原価計算・直接原価計算の方法について学習します。 ※ 原価計算の授業では、企業が仕入れた材料などを使って製品をつくる活動であり、そうした活動を含む企業の経営成績や財政状態を明らかにする方法を学びます。原価計算を学び、企業経営における会計の役割を、より広い角度から把握できるようになります。	
3 学 期	第6編 直接原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算をすることで、損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解できます。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	基礎的・基本的な技術を身に付け、数計的に把握し、その成果を的確に財務諸表を作成して示すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや定期テスト ノートの状況 発表の内容やしかた 配布物の管理 課題やレポートの内容や提出状況
思考・判断・表現	資格取得の選定の際多様にわたり選定し無理な計画は立てなかったか。また、逆に安易な計画ではなかったか。問題解決にあたり、適切に考察できたか。	
主体的に学習に取り組む態度	原価計算を学ぶことで、企業経営における会計の役割を、より広い角度から把握できるようになったか。	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

情報処理	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な技能や、ビジネスをより正確・安全かつ効率的に処理する創造的な資質・能力を身につける。
使用教科書・副教材等	最新情報処理（実教出版）・全商情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報部門2級（実教出版） 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学 期	第1章 企業活動と情報処理 2節 情報モラルと法規(確認) 第4章 ビジネス文書の作成(演習) 3節 応用文書の作成 第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(応用) 3節 セキュリティと暗号化, マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 情報の価値やデザインを考え、知的財産としての情報を正しく取り扱うことの大切さを踏まえ、ICT社会を支えるビジネスについてより理解を深めましょう。 ワープロソフトの利用に関する習得した知識と技術を活かし、より高度な文書作成の要領について理解し、効果的かつ効率的な社外文書が作成できるようになりましょう。 複雑な情報通信ネットワークの仕組みとビジネスの場面での情報の活用、より安全に利用できるための仕組みや技術を理解できるようになりましょう。 	
2 学 期	1節 ハードウェア(計算演習) 2節 ネットワークのしくみシステムの形態や識別技術 第3章 情報の収集と分析(応用) 1節 表計算ソフトウェアの活用(演習) 2節 関数の応用と複合グラフ	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの発展的な機能と構成、ビジネスの場面で活用するハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解を深め、適切に使い分ける技術を身につけるようにしましょう。 発展的な操作や計算式、関数、グラフについて理解し、ビジネスの目的に応じて適切な表やグラフをより早く効率的に作成する技術を身につけるようにしましょう。 	
3 学 期	4節 データ集計と最適解, リレーショナルデータベース 第3章 情報の集計と分析(応用) 6節 プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> 膨大なビジネスデータの集計や、逆算して考える意味や技法について理解を深めましょう。 データベースの考え方とそれをいかに紐付け・整理するかについて理解を深めましょう。 ビジネス上の問題をアルゴリズム的思考で解決することで、業務をより効率的に推進することにつながる発展的なプログラム技法について理解できるようになりましょう。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	企業において、情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや定期テスト ノートの状況 発表の内容やしかた 配布物の管理 課題やレポートの内容や提出状況 <p>※「商業」の各授業は、<u>配布プリントや実習等のデータを自分で管理するようにしています。</u></p>
思考・判断・表現	企業の情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

「ソフトウェア活用」	単 位	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年 情報コース

学習到達目標等

学習の到達目標	(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務を意識し、関連する知識や技術を身に付けることで、ビジネスをより効率・効果的にこなせるようになることをめざします。 (2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決できるようになります。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとする姿勢で ICT を推進していきましょう。
使用教科書・副教材等	ソフトウェア活用 (実教出版) 全商情報処理検定模擬試験問題集3級 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第1章 企業活動とソフトウェア活用 (1) ビジネスにおけるソフトウェアの活用 (2) ビジネスにおけるソフトウェアの進化	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解しましょう。 ソフトウェアの進化が、社会に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身につけましょう。 Society5.0が実現しようとしている社会について考察していきます。 	
2 学 期	第2章 情報通信ネットワークの活用 (1) 情報通信ネットワークの導入と運用 (2) 情報資産の保護 第3章 表計算をソフトウェアの活用 (1) 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタを LAN やインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身につけていきます。 表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身につけると、業務を効率・効果的に推進できる力になります。 	
3 学 期	(2) 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ (3) 手続きの自動化	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する能力を身につけていきます。ここでは、Excel VBA を活用して業務効率化をめざすシステム開発の実習の予定です。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや定期テスト ノートの状況 発表の内容やしかた 配布物の管理 課題やレポートの内容や提出状況 <p>※「商業」の各授業は、配布資料等をいかに自分で管理するかをみています。 ※メモが自分を助けます。</p>
思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として、より創造的に解決しようとしている。	
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの